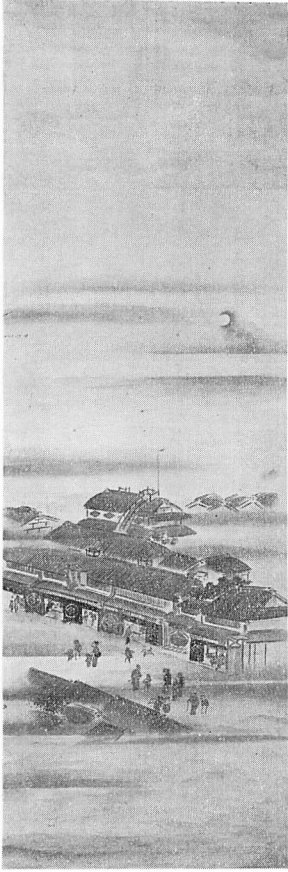
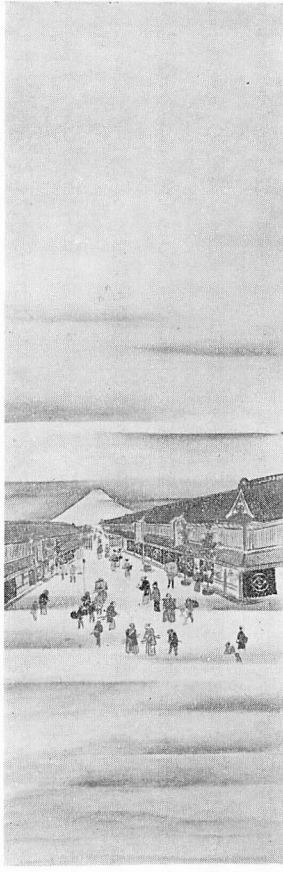


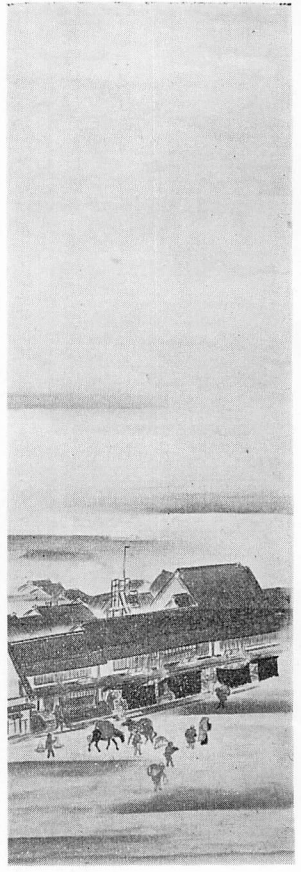
三都越後屋本店絵図



(大坂)



(江戸)



(京)

皇都
浪花

越後屋本店図 三幅（三井文庫所蔵）原画面各幅一〇三×二五センチメートル

この三幅対は、絹地に墨絵淡彩の写生風の肉筆画、綴子の本袷装仕立、もと三井家又は本店（呉服店）筋の注文になったものであろう。筆者も年紀も不明なのは遺憾だが、画かれた建物の絵図面と対照して、ほぼ文化文政頃と推測される。特に珍しいのは仕入店であった京本店（室町通二条上ル冷泉町西側）の図で、天明八年類焼後再建した本普請の店頭を画いた唯一のものであろう。表屋根の軒先に雪留め（？）様の横板のあるのは、禁裡御用の商家に特有のもので、京両替店にもあった。大坂本店（高麗橋一丁目南側）は天保の大塩騒動に類焼した頃の姿が見られる。京本店と共に各大屋根の火見櫓に高い旗竿が立っているのは、大津—京—大坂と連絡した相場通信用の旗信号のそれであろうか。江戸は富士山を正面に見て、本店（右）向店（左）と駿河町全町を占めた越後屋の初春風景、これは北斎広重等でお馴染の画題だが、これも幕末数度の類焼前の本普請のそれがうかがわれる。

（山口）